

特別の教科 道徳学習指導案

日 時 令和4年7月13日(水) 6校時

指導学級 第1学年1組(教室)

指導者 教諭 鈴木 航 平

I 主題名 よりよいクラス活動を目指して(東書・新しい道徳P74～P79)

II 指導に当たって

1 主題について

指導内容C-(15)は「学級や学校の一員としての自覚を持ち、協力し合って集団生活の充実に努めること」をねらいとしている。

中学生の時期は、学級や学校などのさまざまな集団の中で、人と関わりながら人間的な成長を遂げるのによい時期である。ともすれば、自分のことだけや狭い仲間意識の中でのみ行動するのではなく、属する集団の在り方を理解し、役割と責任を自覚して集団生活の向上に努めようとする態度を育てたい。

本題材では、ある学校の生徒総会で決まった「アルミ缶回収」の活動を全校で行うに当たり、学級で目標を設定し、その達成に向けた苦悩が描かれている。始めは学級のみなが目標達成に向けて順調に回収活動を行っていたが、部活動などで忙しくなるなどして、次第にアルミ缶の回収量が減ってしまう。アルミ缶回収の目標達成に向けて努力する生徒と協力しない生徒の心情や言動を通して、自己の学級の一員としての在り方を考えさせ、実生活に生かしていくことが大切である。

2 生徒観(省略)

3 指導観

学級では、一人一役を意識させて係活動に取り組ませている。自ら積極的に動こうとする生徒と仲間や教師から声を掛けられてから動く生徒がいるが、役割を果たすという点では差異は見られない。道徳科においては、学級としては集団生活における規律を重んじ、秩序ある言動や行動ができる態度を育成したり、他者への思いやりの気持ちを持って生活したりすることを目指している。教科書の内容にしっかりと向い合せ、授業を経て実生活にも生かしていこうとする道徳的実践意欲の育成を図る。効果的な学習のため、学習形態の工夫やタブレット等での可視化、意見交流を積極的に行っていく。

本時の授業においては以下のような手立てを行うことで価値に迫っていく。

- ①導入において、これまでの学級の係活動等における自分自身の姿について振り返らせ、集団における自分の立場や考えを可視化させ、価値への導入を図る。
- ②展開において、教科書を読んで集団での目標達成に向けた取組や途中の困難の中で表れる登場人物の心情を捉えさせたい。その中で、個々に考える集団の在り方について意見を持たせ、意見交換をさせながら考え方を深めさせたい。
- ③終末において、集団生活を送る上で学級や学校の一員としての自覚を持ち、個が果たす役割が大切であることに気付かせたい。更に、自己や他者の思いを尊重したり、見通しを持って目標を設定し、協力し合って達成を目指したりしていくことが必要

になることに気付かせたい。

Ⅲ 研究テーマとの関連

1 校内研究における教科等重点実践事項

本校の研究テーマ「自ら課題を見つけ、探究的、協働的に解決できる生徒の育成～目的に応じた ICT の活用を通して～」を受けて特別の教科道德の重点実践事項を「自己の内面で気付き感じたことを互いに認め合い、感謝と思いやりの心を持ち、自ら進んで行動をする生徒の育成を目指した道徳的価値への気付きを促す。」としている。

2 校内研究における取組の経緯

生徒が身に付けるべき道徳性とは、あくまで個人のこれまでの、あるいはこれからの生活経験や学びの中で培われるものであり、一通りの答えがあるものではない。特別の教科道德では、「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める」という目標がある。この目標の達成に向けて、本校では ICT を活用して、自己や他者の意見を分かりやすく可視化させたり、道徳の授業を担当のみが担うのではなく、学年主任や副担任が行うことでの幅広い価値観や視点を生徒に与えられるようにしたりしている。

本時の学習に当たっては、これまでの生活経験から得られた考え方や生き方を個別に整理するとともにアンケートから得られたデータと比較したり、新たな考えを見出したりすることで指導の個別化と学習の個性化を両立させ、個別最適な学びの実現を図りたい。また、個の持つ考え方を班で意見交換させたり、全体の場で発表させたりすることで協働的な学びを深め、終末でまた個へ返すことで、前述の目標の達成を目指す。

Ⅳ 本時の指導

1 題材 「全校一をめざして」（出典：新しい道徳 東京書籍）

2 目標

集団の一員としての自分の役割と責任を自覚し、よりよい集団生活を送っていこうとする志向を見出す力を身に付ける。

3 指導における工夫

校内研究の視点から考えた以下のような手立てを講じれば、本時の目標を達成することができる。と考える。

(1)【視点1】「生徒が自己調整しながら学習を進めていくための工夫(探究的な学び)」

手立て① 発問や題材を吟味し、生徒が疑問や問題意識を持つような課題等を設定する。

- ・導入と終末で生徒の実生活と照らし合わせた発問を投げかけることで、単に物語内の課題解決を図るのではなく、実生活に即した課題として捉えさせる。

手立て③ ノートづくり, ワークシート, ホワイトボード, プレゼンテーション等 (ICT 機器) を活用し, 生徒の考えを可視化するための工夫をする。【提言 4】

・タブレットを活用し, 自分や他の人の考えが見えるようにする。

(2) 【視点 2】「伝え合う力を高める手立ての工夫 (協働的な学び)」

手立て② ロイロノートやジャムボードなどのコミュニケーションツールを利用し, 意見交流の場を設定する。

・意見をしっかりとタブレット内にまとめ, 発表を補助し, 意見交流の充実を図る。

4 資料分析 (別紙 2)

5 指導過程 (別紙 3)

6 評価

＜物事を多面的・多角的に考えている様子＞

意見の違うそれぞれの立場について, 登場人物の考え方や心情を読み取り, 他者との意見交流の中で深め合っている。

＜道徳的価値についての理解を自分との関りで深めている様子＞

集団の一員としての自分の役割と責任を自覚し, よりよい集団生活を送っていこうとする志向を見出そうとしているか。

7 板書計画

6 / 10 (金) 検討したいところ

	○真美と由紀, 圭司と悟のそれぞれに必要なことは何か。 姿 ・竹田さんの「役に立ちたい」という気持ちや一生懸命に話すか。 ○1年の組に「全校一を目指して取り組もう」と思わせたものは何か。 ○係活動や委員会活動について	全校一をめざして
		

8 資料

(1) 教科書の写し (別紙 1)

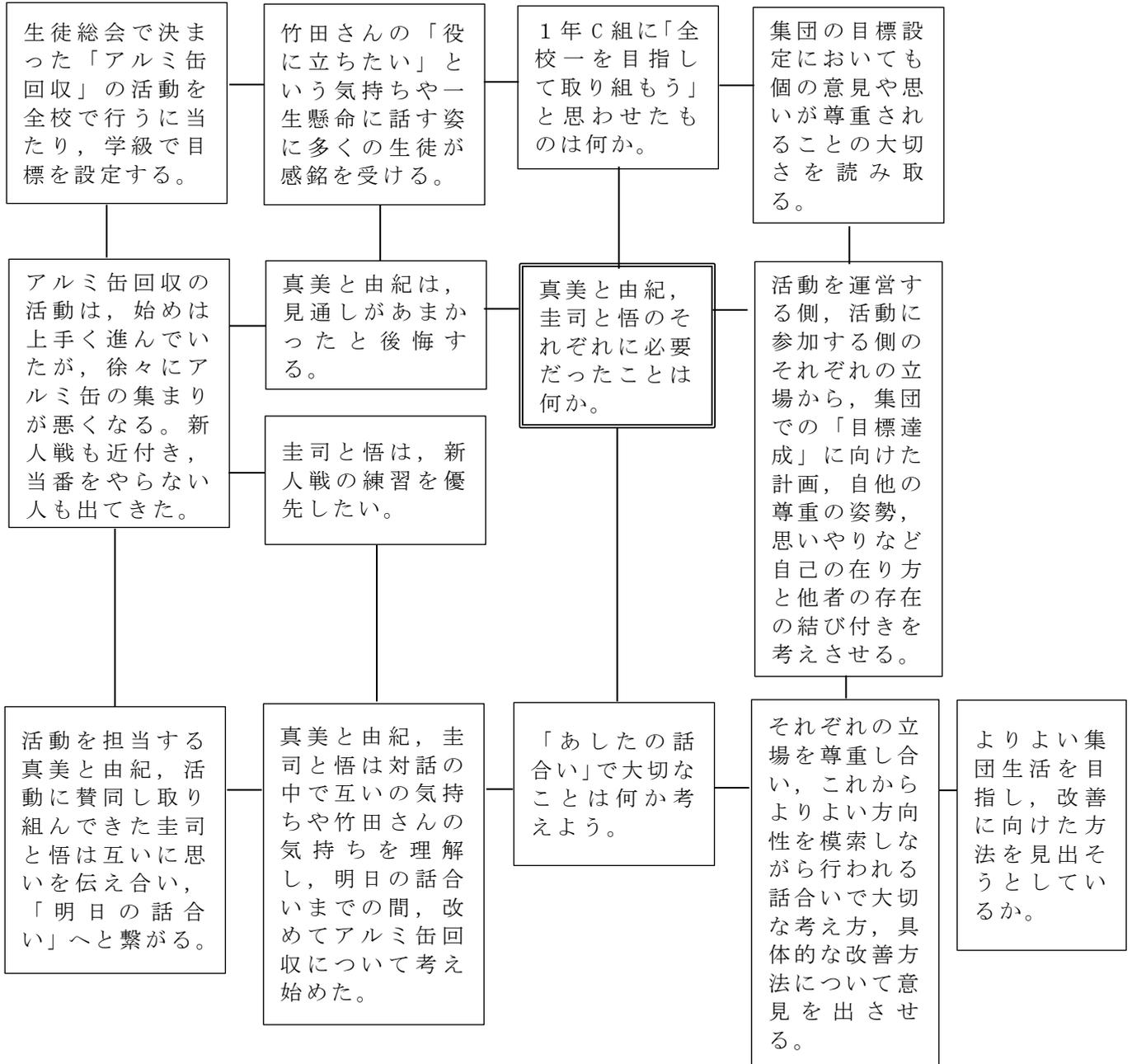
(2) 資料分析 (別紙 2)

(3) 指導過程 (別紙 3)

4 資料分析（別紙2）

資料名	全校一をめざして	内容項目	C - (15)
ねらい	集団の一員としての役割や責任について深く理解させ、互いに協力して励まし合う活動をしようとする態度を育てる。		

< 主な場面 > < 登場人物の心の動き > < 主な発問 > < 発問の意図 > < 価値 >



IV-5 指導過程（別紙3）

段階	生徒の学習活動			教師の支援	
	学習活動	予想される反応・動き	形態	◇支援・◆留意点 ・【5つの提言】・資料	評価
導入 5分	1 学級の係活動や委員会活動に自分はどのように携わっているか。 ・「係・委員会活動に関する意識調査」の結果を資料として活用する。	・「しっかりと取り組んでいる」 ・「忘れてしまう時がある」 ・「面倒くさいと思う時もある」	個 ↓ 一 斉	◇できるだけ正直な思いを出させる。	
展開 40分	2 「全校一を目指して」を読んで話し合う。 3 学級の目標が決まっていく過程を読み取る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">1年C組に「全校一を目指して取り組もう」と思わせたものは何か。</div> 4 活動を運営する側と活動に参加する側、それぞれの立場に立って考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">真美と由紀、圭司と悟のそれぞれに必要なことは何か。</div> 5 「明日の話合い」に必要なことを考えたり、想像したりする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">「あしたの話合い」で大切なことは何か考えよう。</div>	・竹田さんの「役に立ちたい」という気持ちや一生懸命に話す姿に学級全体が感銘を受ける。 ・真美と由紀「決めたこととは言え、強制させるのはよくない」 ・圭司と悟「理由があるなら相談するべきだった」 ・「取組みの内容を見直すことが大切」 ・「誰かの負担にならない方法を探すことが大切」	一 斉 一 斉 個 ↓ 一 斉 個 ↓ 班	◆口頭で発問し、挙手で答えさせる。 ◆それぞれの立場を理解し、「互いに必要だと思われること」をまとめさせる。【提言4】 ◆個の意見をタブレットにまとめさせ、全体で共有する。 ◆タブレットを使わせながら班で交流させ考えを深めさせる。 ・集団をよりよくしようとする意見を積極的に褒める。【提言2】	IV-6 (机指導, タブレットの記述, 発言)
終末 5分	7 本時のまとめ		個	◆自分たちの学校生活を意識させてまとめさせる。 ◆感想をタブレットに書かせ、良い意見の複数人に発表させる。 ◆自己の生活に生かしていくことを意識させる。【提言3】	